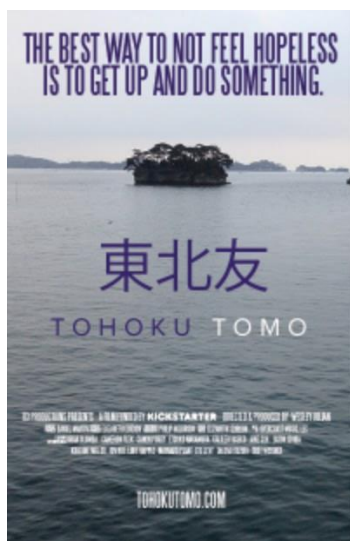


上映作品一覧



Tohoku Tomo 東北友 (2014年) 監督 Wesley Julian

東日本大震災後に国際色豊かなコミュニティ・団体が東北各地で復興のために活動してきました。「東北友」は、彼らの日本に捧げる思いや日本との“絆の強さ”を映し出したストーリーです。

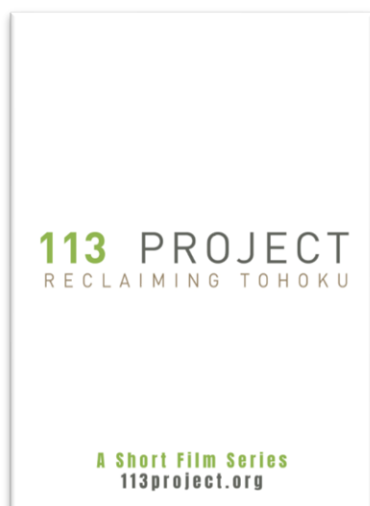
本作には、J-POP アーティスト Monkey Majik のメイナード・プラント、映画「Pray for Japan」のプロデューサーであるステュー・レヴィ、JET プログラム経験者が出演しており、十数本のインタビューや被災地での映像を収録しています。



Pray For Japan (2012年) 監督 Stu Levy

「Pray for Japan」の舞台は、人口 16 万人を超える東北最大の沿岸都市である宮城県石巻市。アメリカ人映像作家ステュー・レヴィは、ボランティアとして東北を訪れた際に津波の被害状況を撮影し、6 週間かけて 50 時間以上の映像を撮影しました。

「Pray for Japan」は、学校、避難所、家族、ボランティアの 4 つに焦点を当てており、それぞれの視点から、大きな困難に直面し、それを乗り越えようと闘った被災者の姿が描かれています。この作品を通じて、大規模な自然災害がもたらした影響の大きさと、愛する人や故郷のために闘った実在のヒーローたちを知ることができます。



113 プロジェクト (2015年) 監督 Wesley Julian

2014 年公開の「東北友」ドキュメンタリーチームが手がけたスピンオフ・ショートフィルムが「113 プロジェクト」です。被災地に暮らす若い世代や地元の商品主、コミュニティへのインタビュー映像では、彼らの精神力の強さ、復興に向けた取り組み、未来への希望が語られています。被災地の様子を知るとどまらず、人々の温かさ、地域の美しさを再発見し、東北を見つめ直すきっかけにしたいという思いが込められています。

ショートフィルムは、www.113Project.org でもご覧いただけます。



Nourishing Japan (2020年) 監督 Alexis Agliano Sanborn

「Nourishing Japan」は、日本の学校給食制度や食育の成功と実践に焦点を当てたドキュメンタリー映画です。

日本では、農家から学校給食センターの方まで多くの人の献身的な努力や技術によって、子どもたちに健康的で栄養価の高い食事を提供することができ、子どもたちは自然・食のシステム・地域社会・世界との関係性を学ぶことができます。

日本の学校給食や食育システムが世界でもトップクラスと言われているにもかかわらず、その成功のために働いている方の存在や努力があまり知られていないことからこの作品が生まれました。教師や栄養士、食育の専門家などに話を聞くことで、畑から教室までの様子を伝えています。

※東日本大震災の後、復興に向けて学校給食の再開が果たした役割についても描かれています。



LIVE YOUR DREAM (2013年) 監督 Regge Life

この映画は、テイラー・アンダーソンと世界を旅する若者たちの物語です。テイラーは、2011年3月11日の震災が起こるまで、石巻市の子どもたちに英語を教えることに専念し、夢に向かって生きてきた素晴らしいアメリカ人でした。あの地震と津波は、誰もが予想できなかった災害でした。

テイラーの石巻の人々への情熱と熱意は並々ならぬものがあり、感銘を受けた監督がテイラーのご家族へコンタクトし、本作品が制作される運びとなりました。



Life Goes On 一陽来復 (2017年) 監督 Mia Yoon

2011年3月11日の東日本大震災から6年。甚大な被害を受けた地域では、多くの人々が深い喪失感やトラウマを感じながらも、前に進もうとしています。

このドキュメンタリーは、被災地で暮らす人々の物語を通して、東北の日常、そして日本の今の姿を明らかにします。韓国からの移民3世のミア・ユン監督は、この地に足を運び続ける情熱をこう語ります。「東北の悲劇が世界に発信されましたが、数年経って希望や幸せの光が見えてきました。それを伝えていくべきです」。

映画のナレーションは、被災地で献身的なボランティア活動を行っている女優の藤原紀香、吹き替えは被災地出身の山寺宏一が担当しています。